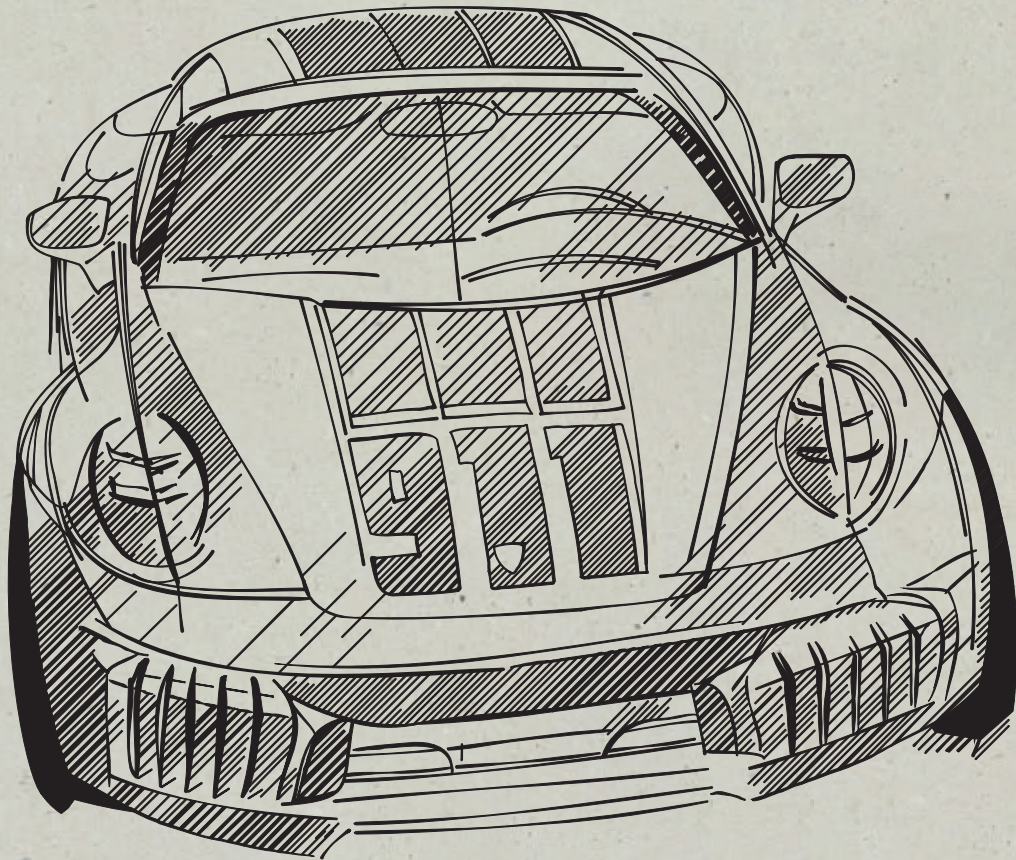


TIMELESS NEWS

ORIGINALE

11 | TEILE. TYPEN. TECHNIK.



PORSCHE

1

Heroes

どの製品にも、あっと驚くような秘話があるものです。今回は厳選された3つのハイライトをご紹介します。特別な物語を通して、これらの秘められた歴史を覗いてみましょう。



燃料消費量、CO₂排出量、効率クラスに関する情報は103ページをご覧ください。

「原点なくして未来なし」。これは、ポルシェの新モデルをデザインするときの基本理念です。インスピレーションは歴史から生まれ、現代的かつ未来志向な形で表現されます。その最たる例が、Heritage Design戦略モデルです。限定生産のコレクターズモデル 911 スピリット 70では、デザイナーが激動の70年代を演出しています。

WKD480520

それは、ポルシェ文献の「聖書」とも言える存在。整備士からコレクターに至るまで、誰もが欲しがる——それがオリジナルの修理マニュアルです。しかし、今や希少となった原版冊子の多くには、明らかに摩耗の跡が見られます。今回、1971年までの911 Fモデル向けリペアマニュアル第I巻および第II巻の新版を、ドイツ語および英語でご提供いたします。これにより、ポルシェは代替品ではなく、「オリジナル版」のご提供に踏み切ります。

自動車ジャーナリスト、自動車史家のWolfgang Blaubelは、クラシック界の有名な人物です。ジャーナリストとしての活動に加え、2013年から2022年まで自動車史学会の会長を務めた彼は、11年間にわたり連邦議会の自動車文化財に関する議員グループのメンバーとして、さまざまな省庁に専門的な助言を提供しています。

↓

Wolfgang Blaubelは、書斎の本棚の前に立っています。棚の1つの区画には、7冊の赤い本が収められています。これらは50年以上も前に発行された、911向けリペアガイドの原版です。そのうち4冊は1972年以降のモデル向けで、構成部品ごとに説明が行われています。もう1冊はターボ向け。そして残りの2冊は、1971年までの初代911向けです。ブラウベはこの最後の2冊を取り出し、一見まったく同じに見える2冊の隣に置きました。しかし、よく見ると、これらは新版であることがわかります。彼はそれらの新版のページをめくって目を通し、50年の歴史を経た初版と比較しました。「とても、とてもきれいに仕上がっていますね」。彼は賛辞を述べると、新しい方の2冊を閉じ、ワークショップへ持っていきました。一方、歴史を重ねた初版の方は、元のように本棚に戻されたのでした。

1960年代から1970年代初頭にかけて社内向け整備文書として出回ったこの冊子の原版は、今日ではコレクター垂涎の的となっています。傷みがなく、特に完全な状態のものは、今日も最高価格で取引されています。ポルシェのプロダクトマネージャー、Lukas Werginzは、このリペアガイドを「ポルシェ文献の聖杯」と表現します。車両において、修理が可能なものについては、細部に至るまでそのすべてがここに記載されています。これらの文献はメカニックだけでなく、Werginzの知る限り、多くのコレクターにも人気を博しています。他方、歴史的な初版は非常に数が少なく、元々は社内のみで用いられていました。

その希少性の理由は、本来の目的と関係しています。「これらのガイドは、ポルシェの契約ワークショップ専用で作成されました。その結果、これらは作業台の上に置かれ、汚れた油まみれの指で使用され、使用後に正しい場所にきちんと

と戻されなかったため、ページが破れたり、紛失したりしたのです」とWerginzは語ります。もちろん、原版を手に入れる方法はいつでもありました。しかし今では、「値段は到底つけられません。ワークショップで使う人がもうほとんどいないのは、まさにそのためです」とWerginzは続けます。

Lukas Werginz曰く「今日、この歴史的なリペアガイド初版は、値段がつけられないほど貴重です」とのこと。

しかし、ポルシェが新版を発表したことにより、入手のハードルはぐっと下がりました。今では、誰でもこれを手に入れることができます。一方、プロダクトマネージャーたちは、完全な状態で保存された原版を探し出す努力を惜しみませんでした。しかし、これは非常に難題であることが判明します。問題は、冊子がかかなり使い込まれていたことだけではなく、当時、定期的に郵送で受け取られていた補記ページが存在でした。「ワークショップでこれをファイリングしなかったケースもあれば、または間違った場所に貼り付けていたケースもありました。しかし、もちろん私たちはすべて揃った完全バージョンを見つけたかったです」Werginzはそう語ります。そして、ヴァイザッハの開発センターからポルシェミュージアムに持ち込まれた冊子群の中に、ついに探し求めていたものを見つけたのです。「ほんの少し使われただけの、理想的な見本といえるものでした」。慎重にチェックを重ねて本当に完全であることが分かったと、今度はすべてのページを高解像度でスキャンしました。そして次は、



この歴史的標本がもっていたオリジナルの外観を正確に再現する作業に取り掛かりました。そのために、プロジェクトチームは一枚一枚の写真をチェックし、必要に応じて加工を施し、ページの角折れ、破れた穴、指紋などを取り除いて再現を勧めました。そして、坪量も手触りも60年代や70年代と全く同じ紙に印刷したのです。ヴィンテージ効果を高め、新しく見えすぎないようにするために、アイボリーの色合いがやや強めの紙を選びました。さらに、かつてボルシェと密接な関りを持ったグラフィックデザイナー、Erich Strengerが定義した歴史的なカラー、典型的なボルシェレッドの高品質フォルダーも作成されました。これに対し、新たに加わったのは、各巻を追加で包装したスリップケースです。「これで、パインダーをより確実に保護できます。また、『Genuine Porsche』のロゴは、これが単なる復刻版ではなく、ボルシェの品質基準を満たした本物の製品であることを示しています」とWerginzは述べています。

新たに加わったスリップケースは、新版ガイドがボルシェの品質基準を備えた高品質の製品であることを示しています。

ディテールにここまでこだわって生み出されたこれらの冊子は、オリジナルの初版を所有していない限り、ワークショップに持ち込むにはやはり貴重すぎます。この新版は、彼のこだわりが詰まったオーダーメイドです。貴重なコレクターズアイテムは安全に棚に保管され、新版はワークショップで使用されます。現在、彼のTo-Doリストには2つのプロジェクトがあります。ひとつめは、妻の1976年型911のエンジンをオーバーホールすること。ふたつめは、1971年型ガルフオレンジの911 Tのメンテナンス。この夏には、この車で再びいくつもの長距離ラリーに参戦する予定です。今日は、ふたつめのプロジェクトのために、彼はスパナを握っています。

「ここは典型的な、手作業のワークショップですよ」。ガレージに足を踏み入れ、彼はそう言います。彼のボルシェに対する熱意は、いたるところに見て取れます。後方の壁には1960年代後半に描かれた大きなボルシェの紋章が掛けられ、作業台の上には純正のワークスオーバーオールが吊るされています。そしてその隣には、紛れもなく6気筒水平対

向エンジンのものであるグリーンのエアダクトがあります。自動車ジャーナリストであり歴史家でもある彼は、1980年にハンブルクのVWとボルシェのディーラー、Raffay & Co.でコーチビルダーとして修業を積んだ後、大手クラシックカーディーラーのバイヤーとして働きました。その後コピーライターに転身、1997年からは専ら自動車ジャーナリスト、自動車史を専門とする歴史家として活動しています。多くの歴史的な車両のファンにとって、彼は単なるジャーナリスト以上の存在であり、オールドタイマーシーンの権威として認識されています。

そして彼は、ボルシェに関わるときは特に胸が高鳴るという事実を隠すことはありません。911 Tに加え、彼は1983年の928 S、2002年のボクスター Sも所有しています。「ボルシェは常に私にとって、常に完璧なスポーツカーでした。信頼性があり、非常にタフな車ですから」。リペアガイドの新版は、この確信をますます強めることとなりました。さらに、スベアパーツの供給体制が群を抜いて優れていることも大事な点です。「パーツ供給に関しては、ボルシェは本当に最高です。欲しい部品はすべて手に入るし、ウィンドウシールでも、ネジでも、ホイールハブでも、ひとつひとつが完璧にフィットします」。彼は娘の924 Sを例に挙げ、こう説明します。「この車に必要なパーツもすべて適正価格で手に入ります。もちろん、すべてが完璧に機能します。こうしたことが、信頼をますます強めてくれるんです」。

「私にとって、ボルシェはいつだって完璧なスポーツカーでした。信頼でき、極めてタフな車です」。

今日は、フロントホイールのベアリングをチェックする予定です。「これは通常のメンテナンス作業ではないですね。責任を持ってきちんと使用すれば、ホイールベアリングが摩耗することは、実はほとんどないんです。でも、私はスポーティな運転もするし、オールドタイマーラリーにも参加するので、定期的にチェックして微調整を行います」とはいえ、これは毎日の慣れきった作業ではありません。そこで、彼はあのリペアガイドを手にとって、正しいページを開きます。「ホイールを外し、ホイールハブからダストキャップを外して、クランプナットを調整する」。彼ならば、きっと寝ていてもできる作業でしょう。しかし、正しいトルクを確認する

→
モデルイヤー1971年の911 Tと
モデルイヤー1983年の928 S
に加えて、ヴォルフガンク・ブラ
ウベは2002年のボクスター
Sにも乗っています。

→
Wolfgang Blaubeのワークショ
ップを覗いてみましょう。ボルシ
ェの大きなクレスト、
ワークスオーバーオール、
そしてボルシェのロゴが印象的
な928 Sのカムシャフトハウジン
グなど、彼のボルシェに対する
熱意は多くのディテールに表れ
ています。



には、やはりこのガイドが役立ちます。満足いくまで作業を続けた後、ダストキャップとホイールを再び取り付けます。

「リペアガイドの正確な情報のおかげで、作業がずっと上手くいくようになりました」と彼は語ります。しかしながら、これは専門家としての彼の言葉です。趣味のレベルで整備を行っている方は、今まで通りボルシェ クラシック パートナーまたはボルシェ センターに問い合わせる方が賢明でしょう。もちろん、一部の作業では特殊工具が必要となります。彼は911Tのリアに行き、エンジンフードを開くと、Vベルトの張りを指でチェックします。「これは、正しい工具がな

ければ調整できません。絶対に無理ですね」。もっとも、当時のボルシェの車載ツールキットには、これに適したフックスパナが最初から入っていました。しかし、今ではもうどの車両のツールキットにも入っているわけではありません。ただ、ここでも、ボルシェはしっかり対応。クラシックカー用のツールキットは、当時の時代背景にふさわしいデザインであるだけでなく (たとえば911Fモデルではブラックとホワイトのペピタを採用)、すべて純正と同等の、高品質な工具を揃えています。リペアガイドとの組み合わせで、このツールキットは初期型911のワークショップに最適なコンビとなっています。■

ホイールベアリングの微調整を行うWolfgang Blaube。「リペアガイドの正確な情報のおかげで、作業がずっと上手くいくようになりました」と彼は語ります。しかしながら、これは専門家としての彼の言葉です。趣味のレベルで整備を行っている方は、今まで通りボルシェ クラシック パートナーまたはボルシェ センターに問い合わせる方が賢明でしょう。

↓



ボルシェ 911修理ガイド 第Ⅰ巻および第Ⅱ巻
(ドイツ語) スタンド式ファイル入り
部品番号 WKD480510
911Fモデル (1965～1971年)



ボルシェ 911修理ガイド 第Ⅰ巻および第Ⅱ巻
(英語) スタンド式ファイル入り
部品番号 WKD480520
911Fモデル (1965～1971年)

